

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

5月27日に全国の小中学校で、一斉に実施されました学力・学習状況調査の結果の分析と、今後の小中学校の取組についてお知らせします。

昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大により中止となったため、2年ぶりの実施となりました。調査内容は、教科に関する調査（国語、算数・数学）と生活習慣や学習環境等に関する調査（児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査）です。

1 学力に関して

<小学校>

国語では、「読むこと」について、県や全国よりも高い平均正答率でした。特に、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することや目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに成果が見られました。一方、文法の理解と活用に課題が見られました。

算数では、「変化と関係」について、県より高く全国と同程度の平均正答率でした。特に、複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉えることに成果が見られました。他方、「数と計算」の商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることに課題が見られました。

<中学校>

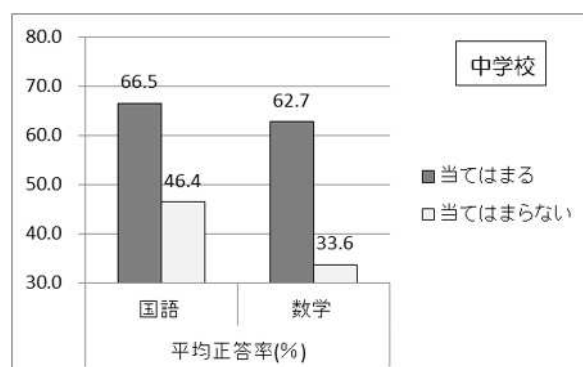
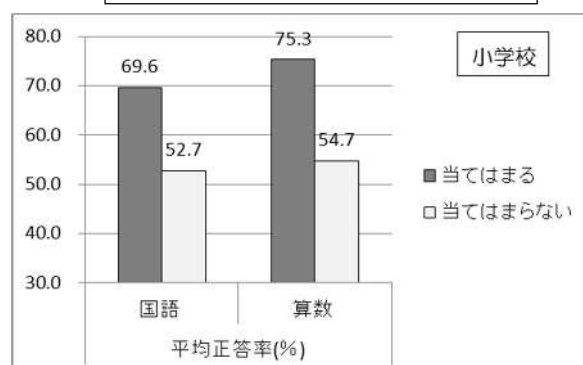
国語では、「書くこと」について、県や全国よりも高い平均正答率でした。特に、文章の構成を工夫して、自分の考えを書くことや伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くといった記述式の問題に成果が見られました。一方、「読むこと」について、文脈の中における語句の意味を理解することや場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することに課題が見られました。

数学では、「関数」について、全国より高く県と同程度の平均正答率でした。特に、関数の意味を理解することや与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることに成果が見られました。他方、「資料の活用」について、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明するといった記述式の問題に課題が見られました。

2 家庭での学習習慣・学校生活の状況について

- 平日、学校の授業時間以外での学習時間は、小学生の約61%が1時間以上、中学生の約46%が2時間以上でした。どちらも、県や国の平均と比べ同程度となっています。
- 小学生の約77%、中学生の約70%が、家で、自分で計画を立てて勉強をしています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。
- 小学生の約81%、中学生の約83%が、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると回答しています。また、小学生の約88%、中学生の約93%が、学級生活をよりよくするために互いの意見のよさを生かして解決方法を決めています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。養老町では、少人数による話し合いを授業に位置づけています。質問紙と問題との相関関係を分析すると互いの意見を聞き、自分の考えを伝え合える児童生徒は、問題の正答率が高くなっているとわかります。
- 小学生の約88%、中学生の約91%が、自分でやると決めたことは、やり遂げるようにすると回答しています。また、小学生の約83%、中学生の約88%が、授業では課題の解

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む



決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいます。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。自分で考え、粘り強く取り組み、やり抜く児童生徒は、正答率が高くなっています。

3 児童生徒の意識・自己肯定感等の状況について

- ・小学生の約84%、中学生の約80%が、将来の夢や目標をもっています。どちらも、県や国の平均と比べ高くなっています。
- ・小、中学生ともに約78%が、自分にはよいところがあると思っています。どちらも、県や国の平均と同程度か、高くなっています。
- ・町内の全小中学校では、学校・保護者・地域の方からの「よいところ見つけ」を継続して行っています。周りの人から、「自分のよさ」を認められ、自分にはよいところがあると感じている児童生徒は、問題の正答率が高くなっています。
- ・小学生の約92%、中学生の約94%が、人が困っているときは、進んで助けると回答しています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。
- ・小学生のほぼ100%、中学生の約97%が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと回答しています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。

4 基本的生活習慣や規範意識の状況について

- ・町内のほとんどの児童生徒が、毎日の起床時刻がほぼ一定で、毎日朝食を摂っています。しっかり食べ、睡眠をとる児童生徒の問題の正答率は高くなっています。
- ・小、中学生ともに約76%が、携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていると回答しています。これは、県や国の平均と比べ高くなっています。

5 新型コロナウイルスの感染拡大で学校が臨時休校していた時期のこと・学校について

- ・小、中学生ともに約87%が、学校に行くのは楽しいと回答しています。これは、県や国の平均より高くなっています。
- ・小学生の約63%、中学生の約67%が、昨年4月～5月ごろ、新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じていたと回答しています。一方で、学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたという割合が県や国の平均より高くなっています。また、計画的に学習を続けた児童生徒の問題の正答率が高くなっています。

6 町全体として大切にしていきたい取組

- ・各小中学校で実践している「〇〇学校の授業はこれだ！」を推進し、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組みます。毎時間の授業の中で児童生徒自身が伸びを実感できる授業を目指し、さらに改善していきます。
- ・授業でICT機器を使うのは勉強の役に立つと感じている児童生徒が多いです。町内のICT環境をさらに整備し、効果的にICTを活用した授業ができるよう、教職員の研修を充実させます。
- ・宿題や自学自習の在り方を工夫し、授業が核となる予習復習が行える家庭学習をさらに充実させ、発達段階に応じ、自ら計画的に学習する習慣づくりに努めます。
- ・「よいところ見つけ」を仲間、教職員だけでなく、保護者、地域の皆様からの協力を得て、さらに児童生徒の自己肯定感を高め、自分や周囲の人を大切にし、人のために行動できる児童生徒を育てていきます。
- ・1日あたりの読書時間は、小中学校とも横ばいか、やや減少傾向です。調査では、1日30分以上読書している児童生徒は、国語だけでなく数学においても平均正答率が高くなっています。日常的に活字に触れる読書指導を進めていきます。
- ・長時間ゲームやインターネット、テレビなどを使用している児童生徒の正答率は低くなっています。ゲームやスマートフォンの依存症にならないよう、「情報モラルスマイル宣言」をもとに、情報モラルの指導を継続して進め、保護者と協力した家庭でのルールづくりなどを続けていきます。
- ・地域の方からは、将来の夢や希望の実現に関わって講話などをいただいています。将来の夢や目標をもっている児童生徒は、どの教科においても平均正答率が高くなっています。これからも、地域の中の学校として、地域の方と共に取り組んでいきます。